

海外情報連絡会セッション

Society5.0 時代に求められる大学発イノベーション

University-driven Innovation to be pursued for realizing “Society 5.0”

*坂本 修一¹

文部科学省

1. 政策的背景

第5期科学技術基本計画においては、サイバー空間とフィジカル空間（現実社会）が高度に融合した「超スマート社会」の実現を目指した一連の取組が「Society 5.0」として位置付けられている。言い換えれば、生産活動や社会生活の状態をセンシングによってリアルタイムで把握し、AIによって解析して高度に最適化、自動化していく取組であるが、このような取組は急速に進展し、経済社会の構造を大きく変えつつある。経済界においては、「Society 5.0」を『「創造社会」すなわち「デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会』と捉えられている。

このような状況の中で、学問が取り組むべき重要な社会課題は数多く存在する。近年、様々な技術分野のデジタルトランスフォーメーションを先導する人材の育成をはじめ、本格的な産学官連携が重要であるという議論が盛んに行われている。ますます高度化する知識社会の中で、大学あるいは学問のあり方も変わらなければならないという要請がますます強くなっている。

2. 大学の機能に求められる変化

2006年の教育基本法改正により、我が国においても、大学の機能について、教育と研究に加えて、それらの成果の社会還元という第3の機能が加わった。大学は学術論文の発表だけではなく、学術的な成果をもとに価値を生み出すところまで実践するよう活動領域を拡張する必要があるのではないかとことが、産学官の関係者が集う様々な場で議論されている。

したがって、伝統的な学問分野の再構成を行って新しい領域を開拓し、最先端の学術的知識を基にイノベーションを起こすとともに、さらなる開拓の芽となるような学術的課題を探索していく活動を専門分野を超えて展開していくことは、産学官連携、産業競争力強化のみならず、学問の発展や新領域の人材育成を含めた大学の使命を果たすうえで非常に重要な課題となっているといえるのではないだろうか。

近年の産学官連携の動向を見ても、例えば企業の研究開発部門と大学との関係について、研究成果や技術を企業がどう取り込むかだけではなく、企業が将来展開しようとする事業戦略に必要なシーズ、コンセプトを共同でつくることを企業側は求めはじめており、さらに製造部門や事業部門まで、大学に大きな役割が期待されている。第一線の研究者の研究成果をもとにスタートアップが大学から生み出されて企業のアライアンスの先となる、そういった新たなビジネス創出の重要な部分を担っていくところまで、学問の役割の進化が必要となっていると言えるのではないだろうか。

3. 海外の状況と原子力分野への示唆

米国では、上記のように産学共同研究を構造化し、その中で博士人材も育成する取り組みが長年継続されている。産学共同による研究人材育成は英国においても重視されており、産学官連携の枠組みの下で開発された人材育成フレームワークによって伝統的な学問分野を超えた構想力、創造性を培う取り組みが進められている。産学共同による研究・人材育成の一体的推進は、欧米主要国の中で大きな流れとなっており、様々な学問分野での新しいサイエンスの形成（例えば核融合）において特に重要になるものと考えられる。

*Shuichi Sakamoto¹¹Ministry of Education, Sports, Culture, Science and Technology